

三愛 ビュー view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2010年10月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344

「三船病院デイケア・デイナイトケア 新たなる旅立ち」

デイケア室課長 国宗 聖子

この度、自立訓練(生活訓練)事業所レイクビューのグループホーム移行計画に伴い、昨年秋頃より準備を開始し、平成22年7月1日からデイナイトケア(8:00～18:00の10時間)を開始しました。まずはリニューアルした三船病院デイケア・デイナイトケアの概要についてご紹介させていただきます。

昭和56年にデイケアを開設して以来、当院デイケアは精神科に通院されている方々の病状や地域生活の安定、維持、充実のための重要な社会資源の一つとして多くの方が利用されてきましたが、これまでの30年に及ぶ経緯の中でも今回のデイナイトケア再開に伴う大幅なリニューアルは画期的な出来事だったと思います。このような大きな変化には利用者だけでなく、スタッフにとっても大きな戸惑いや不安がありました。それでも当院の行う地域精神医療・福祉の発展と、何より多くの利用者の更なる利益の向上に寄与したいという思いで、スタッフ一同、レイクビュー、院内各部署と協働し、デイナイトケア再開に向け尽力してきました。

従来のデイケアセンターである2階部分に1階部分(旧中央病棟を改装)を加え、施設基準を定員50人から70人の規模に拡大し、そのうち30人まではデイナイトケアが利用できるよう再申請しました。またスタッフも看護師1名→3名、作業療法士1名→2名、精神保健福祉士2名→3名、計4名→8名に増員して、施設・設備、マンパワーともに拡充を図り、7月1日より新たな三船病院デイケア・デイナイトケアがスタートしました。

現在デイナイトケアを再開して3ヶ月経過しましたが、毎日約25名の方の利用が定着しています。また最近デイケアの参加者数も1日平均35名程度と増え始め、両者を合わせると60名というこれまでにない大所帯となっています。そのため、利用者各々のアメニティーを充足する必要があり、デイケア利用者はこれまでどおり2階部分、デイナイトケアの利用者は改装した1階部分を中心に過ごすことを基本としながらも、新たに設けたパソコンルーム、リラクスルーム、カラオケルームなどは共有できるようにしています。またこれまでになかった浴室(シャワールーム)や洗濯設備も整いましたので、デイナイトケア・デイケアそれぞれの利用者に有効活用していただけたと思います。

デイナイトケアの再開を機にプログラム(活動)も再検討し、内容・実施方法の見直しを行いました。デイナイトケアの利用者のニーズも多く反映させ、10時間という長い時間をより充実して過ごしていただけるよう、従来のプログラムに加えて手話講座や健康管理、整容などの新たなプログラムも多く取り入れています。またこれまでマンパワー不足で実施できなかった就労支援プログラムも立ち上げました。今後も利用者と一緒に模索しながらプログラムの充実を図っていきたくと思います。

さらに、個別支援(生活相談・服薬サポート・身体管理)にも力を入れています。ケア会議への出席や関係者と密に連絡を取り合うことで、ご家族や他部署・他施設との連携の強化を図っています。その他環境整備や設備管理も以前に比べて目や手が行き届くようになり、利用者からの要望にも迅速に対応できるようになりました。

お伝えしたいことはたくさんあるのですが、紙面には限りがあり文面だけでは伝え切れないこともあります。興味関心のある方はぜひ見学にお越し下さい。新しくパンフレットも作成中ですので、出来上がり次第三船病院入院管理室に置きます。お手に取ってご覧下さい。

最後になりましたが、今後もスタッフ一同、各職種が専門性と力量を発揮しながら、利用者が主体性をもって安定した地域生活を送れるよう、また安心して治療を継続していけるよう、利用者の方々と共に歩む姿勢をもって臨んでいきたいと思っておりますので、引き続きご協力とご理解の程よろしくお願い致します。以下に、各職種からの所感を載せております。新しくなったデイケア・デイナイトケアをより深く知っていただけたと思います。



リラクスルーム

デイケア看護師 速水 可七子

7月からデイナイトケアがスタートし、デイケアの6時間からデイナイトケアは10時間と施設で過ごす時間が長くなりました。それに伴い、デイナイトケアの利用者にとっては帰宅してから居宅で過ごす時間が少なくなるため生活面のサポートも充実させようと考え、洗濯機や浴室、シャワールームなども整備されました。

プログラムにおいても、定期的に身体測定と身体管理についての講義を行う健康チェックや清潔保持を目的としたフットケアなど健康増進に着目したプログラムを取り入れ、メタボリックシンドロームの改善、生活習慣病の予防にも力を入れています。

またデイナイトケア開始に伴って、看護スタッフも1名から3名に増え、個別の健康相談なども利用者個々の希望に合わせてゆっくりと話ができるようになりました。またこれまで看護職は女性のみでしたが、男性の看護師が2名増えたことで、男性メンバーが女性には話にくいと感じていた身体的な悩みや相談にも柔軟に対応できるようになったと思います。

現在デイナイトケアを開始して3ヶ月経過しましたが、徐々に健康や清潔、身だしなみの意識も向上しており、取り組みの成果を実感しています。今後も利用者からの希望を取り入れながらプログラムを作成し、利用者により役立つ活動を行っていききたいと思います。

これからの季節は気候がよくなって、スポーツや外出などプログラムの幅も広がりますが、今年は例年になく猛暑が続き、夏バテや熱中症の危険がまだまだ心配されます。看護職として、利用者が安全に楽しく過ごせる環境作りにも力を入れていきたいと思っています。

最後に、前回記事(三愛view 第5号)を担当してから約6年が経ち、初々しかった私もベテランに・・・そんな中、新しくデイナイトケアを立ち上げることとなり、準備段階から関わらせていただきました。初めてのことも多いうえに新しく参加される利用者の情報も少なく手探りでしたが、充実した環境を整える努力をしてみたいと思います。今後は新しいスタッフとも協力し、新鮮な気持ちで利用者との人間関係を構築し、より愛されるデイケア、デイナイトケアを目指していきたいと思っています。



インターネット・DVD ルーム

デイケア作業療法士 鴨居 弘斉

「作業療法士」とはどのような職業かご存知ですか。キーワードとなるのは「作業」ですが、人が日常生活を送るなかで行う行為、行動、活動、動作の全てを総括して「作業」といいます。寝る、起きる、話す、食べる、歩く、新聞を読む、仕事をするなど挙げればキリがないのですが、日常生活で行っていることの全てが作業となるわけです。作業療法とは、これらの作業を通して身体、精神能力の賦活をはかります。特に精神科病院では、作業を間接的に利用していきます。例えば、絵を描くという場面ではこの作業が得意な方にとっては気分転換になり楽しいでしょう。苦手な方にとっては、しんどくて疲れるだけかもしれませんが、友人と話しながらなら楽しめるかもしれないし、根気強く取り組みれば納得のいく作品が完成し達成感や自信に繋がるかもしれません。しかし、ある作業への参加や完遂にこだわるよりも興味を持てる他の作業に取り組んでもらうなど、無理強いをしないことも重要です。このように、作業の条件や環境を整えることが作業療法士の役割だと考えています。

これからデイケア・デイナイトケアにおける作業療法士の関わりについてお話ししたいと思います。私たちは、まず利用者との関係づくりを進めるとともに評価を始めます。この評価とは、良い悪いと成績をつけるのではなく、ニーズ、趣味・趣向から、グッドポイントや問題点を少しずつ分析し、「個性」を掴んでいくことをいいます。限られた時間で全てを見極めるのは難しいですが、この評価に基づいて今後の関わり方を決めます。それは全ての方に同じプログラムが適応できるわけではないからです。個別の関わりが必要なのか、集団に適応できるのか、得意なことに取り組み楽しんでもらうのか、苦手なことを克服するのか、今は休養が必要なのかなど、さまざまな方向性があります。同じ利用者に対する関わりでも、体調や病状によって内容を考慮する必要もあります。しかし、作業活動を提供し援助していきばかりがいい結果を生むわけではありません。時には利用者自身で考え行動することも重要です。その後で、うまくいった点はもちろん、時には良くない点もフィードバックします。このような関わりによって、利用者によりよい生活を送っていただくことが作業療法士の仕事になります。そのためには、スタッフと利用者という壁を作らず、人として同じ目線に立ち、共に楽しんだり、問題に立ち向かったりするべきではないでしょうか。そういった時間や体験を共有することが、作業療法士のみならず医療・福祉に携わる者として必要だと考えています。

最後になりましたが、今後はこれまでの役割に加え、就労支援の場を展開します。今年9月から精神保健福祉士と協力し就労プログラムを立ち上げ動き始めています。地域社会への復帰の橋渡しとして利用者に関わりを持ち、作業療法士の活躍の場を広げられるよう、これからも日々努力していきたいと思っています。

デイケア精神保健福祉士 奥原 隆也

利用者と過ごす日々の中でデナイトケアの機能や意義が、よりよく発揮できるよう模索しています。

デナイトケアは必要に応じて医療サービスを受けられる「医療の場」である一方で、「リハビリテーションの場」「生活の場」「社会復帰の場」としての意味合いも含まれます。このようにデナイトケアは包括的医療を基盤としていますが、デナイトケアだけで自己完結するものではなく、地域の社会資源の一つとしてさまざまなサポートのネットワークを作ることが求められます。そこで、今後の当院デナイトケアの展望について精神保健福祉士(以下PSW)の専門性を含めて記したいと思います。

まずデナイトケアでの PSW の独自性は、利用者をさまざまな悩みを抱えながらも地域で生活されている「生活者」として捉えることにあります。メンバーにとってデナイトケアは体調を維持するための医療機関の一つであり、目標達成のための通過点ともなります。必要な治療や相談によって「悩みの解消」ができ、日常生活の中で「心のゆとり」や「自信」が回復すると、諦めた目標を取り戻すことができると考えています。そこで利用者が目標と向き合えるように情報提供し、社会資源をコーディネートするといった個別の地域生活支援も PSW の重要な役割となります。このようにPSWとはさまざまな形で目標に向かって共に走る伴走者のような存在だと思えます。

例えば、仕事が長続きせず失望し就職を諦めた利用者がいれば、本当に諦める必要があるか、仕事をするには何が必要であるのか話し合います。そして、プログラムでも就労に関する講座を開き、「責任感」や「自己決定」、「達成感」、「やりがいから生じる自発性」

などが経験できる機会となるよう意識し、利用者自身が自らの潜在的なニーズと向き合う時間ともなるよう留意しています。そしてご家族やハローワーク、就業・生活支援センターなどの関係機関と連絡調整することで就労を目指すお手伝いをするとともに、就業後も継続して働けるように必要なサポートを実施しています。

とはいえ PSW 含め、スタッフが入る必要のない場面も多く、利用者同士だからこそ発揮される力や、グループの中で生じる関係性・支え合いこそデナイトケアの醍醐味であると考えています。

現在、新しく参加された利用者の埋もれたニーズがプログラムに反映しきれていない現状は否めず、デイケア・デナイトケアが一丸となってニーズに沿ったプログラムを実施できるように努めていきたいと思っています。そして今後はボランティア活動を通して地域との交流をはかり、幅広いネットワークを築くことで利用者がより過ごしやすい環境となればと思います。



就労ミーティングの様子

三愛会 トピックス

★三船病院夏祭り

8月7日(土)三船病院夏祭りを開催しました。ゲストに、みなみかじエイサー団の皆さま、歌手の芝口佳徳様をお招きし、迫力のある演舞や歌謡ショーが行われ、皆さま楽しんでおられました。



★第25回相談室セミナー

8月26日(木)「デナイトケアってどんなところ？」と題して第25回相談室セミナーを開催し、三船病院国宗デイケア室課長からデナイトケアの説明を受け見学も行いました。34名の方が参加されました。





【介護老人保健施設 福寿荘】

「福祉用具について」

介護福祉士主任 大上 敏子

私たちが利用者の生活をサポートする上で生活環境を整えるということは重要な役割の1つです。中でも福祉用具は毎日の生活をより暮らしやすくするための大切な道具として、施設では必需品となっています。

福祉用具とは、車椅子や歩行補助具、介護用ベッド、食事・排泄道具など種類もたくさんあり、それぞれ特徴が異なっています。例えば、車椅子には通常型、スウィング式、リクライニング型があります。歩行補助具では杖、シルバーカー、歩行器などがあり、その方の身体機能や歩行状態に合わせて選んでいます。その他に介護用ベッドは、電動で頭部や足部が上下するものもあり、床ずれ防止のためのマットレスクッションなども併せて使用しています。排泄面では必要にあわせて、その方に合ったポータブルトイレや尿器を使用する場合があります。食事面においても、嚥下(飲み込み)状態や手の機能など、その方に応じて、口に入りやすく握りやすいスプーンや、滑り止め付きの食器を使うことがあります。

このように一人ひとりの状態に応じて、医師・看護職員・作業療法士・介護福祉士・管理栄養士など多職種が関わり、その方に最も適した福祉用具を選出し生活のサポートをしているのです。今後も利用者の生活環境を整えていくことで、毎日の生活がより暮らしやすいものとなるよう努力していきたいと思っております。

【三愛会コミュニティケアセンター】

「相談支援事業所はなぞの役割と今後について」



精神保健福祉士 西山 可奈子

相談支援事業所はなぞのは、主に精神障害に関する地域の相談窓口です。相談支援専門員2名(精神保健福祉士)を配置し、2市3町(丸亀市・善通寺市・多度津町・琴平町・まんのう町)から相談支援事業の委託を受け実施しています。業務内容は障害のある方や、そのご家族への個別相談支援が中心となり、地域で安心して自分らしく暮らすことを目的としています。相談は、面接や訪問、電話、市町出張などの方法で行っています。相談内容としては、住居や経済面、日常生活面(食事・清潔保持・金銭管理・書類対応・突発的な状況対応など)、対人関係、就労相談(専門機関との連携)、成年後見制度や多重債務、医療やサービスに繋がるまでの相談など地域生活に基づいたものが中心です。PSWとして生活状況をじっくり確認し、その方が希望している生活はどんなものかを一緒に考えていく中で、必要な障害福祉サービスの調整を行っています。相談件数は平成21年度でみると、実相談者221名、延相談件数4434件にのぼります。いずれも必要に応じて医療機関・権利擁護機関・就労支援機関・特別支援学校・市町・保健福祉事務所なども連携し、地域でサポートを行っています。

支援を行う中で、地域にこんな資源があればこの方の生活はもっと良くなるだろうと思うことが度々あります。これらの課題を地域の課題として地域自立支援協議会という公の場で取り上げることで、より住みやすい地域にしていくことも相談支援事業所の役割の一つです。

近年、統合失調症だけでなく発達障害やパーソナリティ障害、高次脳機能障害などの診断名がついている方の相談も増えてきたように感じます。疾患についての知識や対応の仕方などが不十分なため、今後も勉強していかなければならないと実感しているところです。その他、相談内容は上記に挙げたものを含め多岐に渡りますが、関係機関と協力して障害を持つ方々の生活を見守り、よりよい地域を創っていきたいと思います。

《三船病院からのお知らせ》

【行事予定】

○三船病院クリスマス会

日時: 12月24日(金) 予定

*変更になる場合がございます。

場所: 三船病院会館



《編集後記》

日増しに秋の深まりを感じる今日このごろ、皆さまいかがお過ごしでしょうか。今回の三愛viewでは、三船病院デイナイトケアについて、デイナイトケアで働いている各職種からご紹介させていただきました。それぞれの専門性を発揮しながら多職種・関係機関と連携し、今後も皆さまと共に歩んでいけるよう取り組んでいきたいと思っております。
(三船病院医療相談室 PSW)